

第1編 第三次総合3ヵ年計画の策定に当たって

第1章 計画の趣旨

市川市総合計画は、基本構想が平成12年12月に市議会の議決を経て定められ、基本計画は平成13年3月に策定されています。

基本構想は、「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」を将来都市像として定めるとともに、その実現に向けた施策の基本的な方向性を示すもので、21世紀の第1・四半世紀（概ね2025年：平成37年）を目標年度としています。また、基本計画は、基本構想を具現化するための基本的な施策を定めるもので、計画期間は平成13年度（2001年度）から平成22年度（2010年度）の10年間となっています。さらに、基本計画に示された施策を実現するための施策や事業を示す実施計画として、これまでに第一次総合5ヵ年計画（計画期間2001～2005年度）、第二次総合3ヵ年計画（2006～2008年度）が定められています。

これら3層の総合計画のもとで毎年度の予算が編成され、その実施を通じて、本市の計画的なまちづくりが進められてきました。

第二次総合3ヵ年計画は平成20年度（2008年度）までを計画期間としていますが、10年にわたる基本計画の総仕上げの期間として、平成20年度（2008年度）から平成22年度（2010年度）までの3年間を計画期間とする第三次総合3ヵ年計画を策定します。

第三次総合3ヵ年計画は、中間年度である平成20年度（2008年度）に第二次計画を見直し、改定を行ったものとして位置づけ、第二次計画の計画期間中に終了を迎えた事業を除き、法の改正など、社会情勢の変化により転換したものの位置づけを変更するほか、新たに必要性が発生した事業を加えることにより、これまでのまちづくりの成果と課題を踏まえつつ、社会経済状況や市民ニーズの変化に対応しながら、将来都市像の実現に向けて今後3年間に実施すべき事業を計画的かつ効率的に推進することを目的とするもので、計画策定にあたっては、厳しい財政状況を踏まえつつ、本市における重点事項を明確にして進めます。

かつてのような高い経済成長に伴う税収の増加を見込むことができない一方、今後、急速に進む高齢化などにより、国・地方を通じて財政状況は厳しいものがあり、本市も例外ではありません。このもとで、健全な財政運営の確保を基本として、市川市制70年余で培ってきた文化のまちとしての誇りを維持しつつ、個人のみならず、まち全体の健康づくりに向けたWHO健康都市としてのまちづくり、わが国全体の課題でもある少子化対策、都市の再整備など、重点的に取り組むべき課題への対応を確実に実施していくことを重視します。

第2章 計画策定の基本的な考え方

本計画の策定に当たっては、市が実施主体となる事業に加えて、国・県・民間等が主体となり、本市が事業費を負担・助成する事業、また、本市のまちづくりに大きな影響を及ぼす事業を選定の対象としています。

このほか、次の観点を基本として基本計画に掲げる施策の体系に基づいて実施する事業を選定しています。

- ・重要性：期待される事業の成果やまちづくりに対する寄与などの面からみて重要か
- ・緊急性：計画期間内に実施する必要があるか
- ・必要性：行政の役割という面からみて、市が実施する必要があるか
- ・公平性：市民に対する公平な行政サービスという面からみて問題はないか

また、本計画で選定する事業は、計画期間内に優先的、重点的に実施する「実施計画事業」と、主な実施計画事業と連携しながら各施策の実現を図るための「施策を支えるその他の主な取り組み」に区分します。

なお、「実施計画事業」については、その進行管理を行うことにより、計画期間中における、計画の着実な進捗を図ります。

第3章 計画指標

本計画では、第二次総合3ヵ年計画に引き続き、各実施計画事業に数値目標を設けます。

計画指標は、各実施計画事業の数値目標を中心として、各章ごとに設定したもので、今後、政策（施策）評価システムなど、事務事業よりも上位のレベルにおいて行政運営の体系的な評価システムを構築していくため一つの試みとして位置づけるものです。

次頁に各章ごとの計画指標を示します。

■計画指標

第1章 真の豊かさを感じるまち

指 標 名	現 況 (平成 19 年度)	計 画 (平成 22 年度)
介護予防推進事業・年間参加者数	68,100 人	65,625 人
少人数学習等担当補助教員派遣数	35 人	93 人
総合型地域スポーツクラブ加入会員数	830 人	1,150 人
「ヤング・ジョブ・サポートいちかわ」年間利用者数	250 人	320 人
DVに関する年間相談件数（電話・面談）	280 件	280 件

第2章 彩り豊かな文化と芸術を育むまち

市民文化サポーター新規登録者数	—	年間 120 人
「史跡や文化財に親しむことができる」と思う市民の割合*	40%	40%以上
異文化交流推進事業への年間参加者数	—	300 人

第3章 安全で快適な魅力あるまち

青色防犯パトロール車両台数	129 台	160 台
下水道普及率	63.5%	64.6%
「まちの景観が大切にされている」と思う市民の割合*	24%	24%以上
商店街活性化協議会の立ち上げ数	2 協議会	2 協議会

第4章 人と自然が共生するまち

「市内には自然とふれあい、学ぶ場や機会が多い」と思う市民の割合*	46%	46%以上
環境学習事業（イベント、環境講座等）の年間参加者数	1,200 人	2,800 人
レジ袋削減協定締結店舗数	—	5 店舗

第5章 市民と行政がともに築くまち

e-モニター会員数	2,869 人	10,000 人
1%支援制度への届出数	5,136 人	8,000 人
経常収支比率	86.2%	次期財政計画で 設定
実質公債費比率	7.6%	次期財政計画で 設定
事務事業数	1,056 事業	次期財政計画で 設定
職員数	3,473 人	3,294 人
市川情報化市民パートナー登録者数	200 人	800 人

*：平成 19 年度市民意向調査による

第4章 計画の前提

(1) 計画人口

平成22年(2010年)の計画人口を476,000人とします。

(2) 財政推計

計画期間内の財政規模の推計にあたっては、過去の実績や経済動向も考慮し、今後の国・県の政策動向などを踏まえるとともに、行財政改革の推進による健全財政の改革を基本として試算したものです。

財政規模(平成20年度～平成22年度・一般会計)

(単位:億円)

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	3ヵ年合計
市税	781.9	794.9	809.5	2,386.3
国・県支出金	188.2	189.7	204.8	582.7
その他	267.9	231.1	234.3	733.3
歳入計	1,238.0	1,215.7	1,248.6	3,702.3
義務的経費	608.1	609.5	624.3	1,841.9
計画事業費	166.2	107.8	154.8	428.8
その他	463.7	498.4	469.5	1,431.6
歳出計	1,238.0	1,215.7	1,248.6	3,702.3

※計画事業費欄には、一般会計の計画事業費(3ヵ年合計 361.0億円)に特別会計の計画事業へ繰り出す一般財源(3ヵ年合計 67.8億円)を加算しています。

(3) 計画事業費

本計画における計画事業費は361.0億円とします。

分野別の計画事業費及び財源内訳は次のとおりです。

第三次総合3ヵ年計画事業 年度別事業費

〔一般会計〕

(単位:億円)

区 分	事業数	平成20年度			平成21年度			平成22年度			3ヵ年合計		
		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳	
			特定	一般		特定	一般		特定	一般		特定	一般
真の豊かさを感じるまち	24	22.5	8.9	13.6	28.7	11.5	17.2	37.8	14.7	23.1	89.0	35.1	53.9
彩り豊かな文化と芸術を育むまち	6	0.5	0.3	0.2	2.4	2.3	0.1	1.1	0.7	0.4	4.0	3.3	0.7
安全で快適な魅力あるまち	28	85.1	57.9	27.2	53.3	32.9	20.4	94.9	60.2	34.7	233.3	151.0	82.3
人と自然が共生するまち	9	6.9	5.0	1.9	13.9	4.0	9.9	11.9	2.1	9.8	32.7	11.1	21.6
市民と行政がともに築くまち	10	0.7	0.1	0.6	0.6	0.0	0.6	0.7	0.1	0.6	2.0	0.2	1.8
合 計	77	115.7	72.2	43.5	98.9	50.7	48.2	146.4	77.8	68.6	361.0	200.7	160.3

〔特別会計〕《国民健康保険・介護予防推進事業・公共下水道整備事業(汚水)・市川駅南口地区第一種市街地再開発事業》

(単位:億円)

区 分	事業数	平成20年度			平成21年度			平成22年度			3ヵ年合計		
		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳	
			特定	一般		特定	一般		特定	一般		特定	一般
合 計	4	211.7	149.9	61.8	26.4	16.2	10.2	24.3	14.6	9.7	262.4	180.7	81.7

〔総 計〕

(単位:億円)

区 分	事業数	平成20年度			平成21年度			平成22年度			3ヵ年合計		
		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳		事業費	財源内訳	
			特定	一般		特定	一般		特定	一般		特定	一般
総 計	81	327.4	222.1	105.3	125.3	66.9	58.4	170.7	92.4	78.3	623.4	381.4	242.0

ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ

第1章 真の豊かさを感ずるまち		第1節 健康で安心して暮らせる、地域福祉の充実したまちをつくります (1)生涯を通じて健康で安心して暮らすために (2)助け合い、支え合う地域社会の実現のために (3)安心して子どもを産み、健やかに育てるために (4)ノーマライゼーション社会の実現のために (5)高齢者が地域社会の中でいきいきと暮らすために 第2節 豊かな人間性を育み、創造力あふれる子どもを育てます (1)自ら行動する子どもを育てるために (2)開かれた学校教育を推進するために (3)青少年の健全育成のために 第3節 生きがいを見いだす、いきいきとした生涯学習社会をつくります (1)生涯学習環境を整備するために (2)学習成果が発揮できるために 第4節 誰もが安心して働くことができる環境をつくります (1)安心して働ける労働環境づくりのために (2)豊かな消費生活を送るために 第5節 人権を尊重し、世界平和に貢献します (1)人権と平和を尊ぶ社会を築くために (2)男女共同参画社会の実現のために
第2章 彩り豊かな文化と芸術を育むまち		第1節 芸術・文化を身近に感じるまちをつくります (1)芸術・文化に接する機会を拡充するために (2)気軽に芸術・文化活動を行うために 第2節 文化的資産や伝統文化をまちの活性化に活かします (1)文化的資産をまちの活性化に活かすために (2)地域に根付いた文化を活かすために 第3節 暮らしの中で「まちの文化」を育みます (1)新たな融合文化を創造するために (2)まちの文化を創造するために

第3章 安全で快適な魅力あるまち		第1節 安全で安心して暮らせるまちをつくります (1)災害に強い防災まちづくりのために (2)水害のないまちづくりのために (3)安全で安心できる生活環境づくりのために 第2節 快適な暮らしを支え、質の高い都市基盤整備を進めます (1)バリアフリーのまちづくりを進めるために (2)円滑な都市活動を支える道路整備のために (3)総合交通体系を整備するために (4)清潔な生活環境づくりのために (5)公共施設整備と良好な住環境形成のために 第3節 自然、歴史、社会環境などを活かして、バランスのとれた魅力ある土地利用を図ります (1)地域の特性を活かした土地利用のために (2)市街地の安全性と利便性を高めるために (3)魅力ある都市景観を形成するために 第4節 産業を振興し、活力あるまちをつくります (1)活力ある商業の振興のために (2)地域性を活かした工業の振興のために (3)市民と共存する都市農業の振興のために (4)自然環境と調和した水産業の振興のために
第4章 人と自然が共生するまち		第1節 自然を大切に、やすらぎと潤いのあるまちをつくります (1)人と自然が共生するまちをつくるために (2)緑豊かなまちをつくるために (3)親しみのある水辺空間を創造するために 第2節 環境への負荷の少ないまちをつくります (1)地球環境問題を地域で取り組むために (2)環境に関する学習や活動を推進するために (3)快適な環境を保全するために 第3節 廃棄物の発生を抑制し資源循環型のまちをつくります (1)資源循環型社会構築のために (2)廃棄物処理体制の充実のために
第5章 市民と行政がともに築くまち		第1節 市民と行政とのパートナーシップのもとでまちをつくります (1)パートナーシップ構築のために (2)市政情報の共有化のために 第2節 まちづくりのための新しいコミュニティをつくります (1)新しいコミュニティの形成のために (2)自主的な市民活動の拡充のために 第3節 分権時代にふさわしい行財政運営を推進します (1)地域の個性を活かした政策を展開するために (2)簡素で効率的な行政体制の整備のために (3)健全な財政運営のために (4)広域行政の推進のために 第4節 情報通信技術を市民生活の向上に活かします (1)情報通信技術を通して快適に暮らせるために